

市内各地で指定文化財公演

春の訪れを告げる  
華麗な舞い

桜が満開を迎えた4月初旬、春の訪れを告げる無形民俗文化財の公演が、市内各地で行われました。4月1日には、取香地区の側高神社で三番叟の舞いが、北羽鳥地区の香取神社では三匹獅子による神楽がそれぞれ奉納されました。また、3日には旧成田町の仲町女人講の皆さんによる成田のおどり花見が行われ、伝統を受け継いできた華麗な舞いが成田の春に彩りを添えました。



市庁舎ホールで(おどり花見)



北羽鳥の獅子舞



取香の三番叟



小泉市長が開校を宣言



広々としたグラウンドに面した開放的な校舎

美郷台小学校開校式  
新たな歴史が  
スタート

市内で31校目の市立小学校として、美郷台小学校が開校し、4月5日、その記念式典が行われました。式典では、小泉市長の開校宣言に続いて、岩瀬正明校長が「真っ白な画用紙にいろいろな絵を描くように美郷台小の歴史を作り上げていってほしい」と子どもたちを激励しました。美郷台小は同地区の人口増加に伴い、成田小学校の分離校として新設されたもので、児童数287人、屋内運動場に多目的スペースや児童ホールが併設しています。

久住中学校入学式

真新しい校舎での  
生活が始まる

久住中学校の新しい校舎と体育館が完成し、新校舎となって初めての入学式が4月7日、行われました。広くてきれいな体育館で行われた式典では、吉田清校長から「新しい校舎と体育館で多くの思い出を作り、何事にも積極的に取り組んでください」とお祝いが述べられました。また、新入生35人を代表して、上村美結さんが「すばらしい校舎の良さを学びに生かし、充実した悔いのない中学校生活を送りたい」と抱負を語りました。



在校生が「この星に生まれて」の合唱で新入生を歓迎

## 未来の起業家を夢見て

自分たちで会社を起し、ビジネスの世界を体験する「キッズアントレプレナー」(主催:成田青年会議所)に市内の小学生18人が、春休み中の4日間をかけて挑戦しました。子どもたちは、中央公民館を拠点に3つのグループに分かれ、それぞれ商品を生産・販売する会社を設立。マーケティングや販売計画などの準備を進め、最終日の4月1日には、ボンベルタ百貨店の4階催事場に出店しました。子どもたちのアイデアが詰まった商品は、売れ行きも絶好調。どの会社も利益を上げ、収益は主催者を通じて社会福祉協議会に寄付されました。アロマキャンドルの製作・販売を手掛けた会社で宣伝販売部長を務めた渡辺聖くん(公津の杜小・新6年生)は「人がたくさん集まったところでちらし配りをしました。声を掛けた人たちが買いに来てくれてうれしい」と目を輝かせていました。



かわいいジュエルアクセサリーは女性客に大人気



笑顔で決算書を書き込む

### 土室の神楽

## 豊作と安全を祈願する獅子舞の奉納

土室地区の獅子舞が4月1日、鹿島神社で奉納されました。これは約170年前、江戸時代の天保年間に同地区で始まった伝統行事です。継承者が減少するなどの理由から一時中断していましたが、昭和60年に地区の有志により保存会が結成されて再開し、現在まで受け継がれています。当日は晴天に恵まれ、春風の吹き抜ける拝殿で保存会が獅子舞を奉納。その後、子どもたちに引かれた神楽櫃と一緒に地区内の家々を回って獅子舞を舞い、五穀豊穡、無病息災を祈願しました。



お囃子に合わせて刀を振る「剣の舞」



さくらの山につながる歩道も整備

## 3倍に拡大 駐車場スペースを

市では、成田空港に隣接し航空機の離発着を間近に見ることができるようさくらの山を安全で快適に利用してもらおうと、隣接する駐車場を拡張整備しました。駐車場のスペースは今までの約3倍の123台に増設、駐車場とさくらの山とをつなぐ歩道もあわせて整備し、4月1日から供用を開始しました。当日は、休日であることに加え晴天にも恵まれたため、満開の桜の中、市内外から多くの方がさくらの山を訪れました。